

## 神殿再建の反対；再建の召命（エズラ 5:1-2、ハガイ:1-4、ゼカリヤ 1:2-3）

- さて、預言者ハガイとイドの子ゼカリヤの、ふたりの預言者は、ユダとエルサレムにいるユダヤ人に、彼らとともにおられるイスラエルの神の名によって預言した。」（エズラ 5:1）
  - 先週は、神殿再建の外側からの反対要因 — 脅迫、わいろ、冤罪 — があつたことを見て来た（エズラ 4:4-5）。しかし話の全体を見ると、再建工事が中断したのは外部からの要因だけではなかったことが預言者たちの声によってわかる。
  - 状況によっては神から言われた仕事を行うのにスローダウンあるいは中断するのも必要かもしれない（ルカ 10:25-37 の良きサマリヤ人のたとえのように）。しかし多くの場合はそれらが御心を行わない言い訳になっている。
  - これらの言い訳はわがままや自己防衛から来るもので、御霊の介入なしには気が付かないことが多い。そこで、預言的な声が欠かせなくなるのである。
- ダリヨス王の第二年の第六の月の一日に、預言者ハガイを通して、シャアルティエルの子、ユダの総督ゼルバベルと、エホツァダクの子、大祭司ヨシュアとに、次のような主のことばがあつた。「万軍の主はこう仰せられる。この民は、主の宮を建てる時はまだ来ない、と言っている。」ついで預言者ハガイを通して、次のような主のことばがあつた。「この宮が廃墟となっているのに、あなたがただけが板張りの家に住むべき時であろうか。」（ハガイ 1:1-4）
  - ハガイによれば、工事が中断した大きな原因の一つは人々が主の家よりも自分の家を建てることを優先したからである。
  - すでに祭壇が築かれていたことを思い起こしてみよう。おそらくこの時いけにえはまだささげられていたので、人々はそれで安心していただけのかもしれない。
  - 帰還した人々は何とか暮らしを立てていたが、ハガイは彼らのささげものは神の期待をはるかに下回っていたと指摘している。
- 主はあなたがたの先祖たちを激しく怒られた。あなたは、彼らに言え。万軍の主はこう仰せられる。わたしに帰れ。— 万軍の主の御告げ — そうすれば、わたしもあなたがたに帰る、と万軍の主は仰せられる。（ゼカリヤ 1:2-3）
  - ゼカリヤは、民はすべてを捨てエルサレムに戻り、祭壇を築き、いけにえをささげ、外見上はすべて良いことをしているかのように見えたが、内面では主から離れてしまっていたと指摘している。
  - 私たちも、見た目は正しいことをしていて、周りの人と比べても「霊的に」主に近づいているように見えるかもしれないが、神は違った見方をされる。私たちもこのイスラエルの民のように実は神から離れていてそれに気づいていないかもしれない。時にはそれに気付くために預言的な声が必要になる。
- そこで、シェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子ヨシュアは立ち上がり、エルサレムにある神の宮を建て始めた。神の預言者たちも彼らといっしょにいて、彼らを助けた。（エズラ 5:2）
  - エズラの記録では、人々はこの忠告を聞き入れ、悔い改め、主に立ち返った。恵みによって悔い改め立ち返ったのである。今、主はあなたに何とおっしゃっているだろうか。イエスは何とおっしゃっているだろうか。